石川県産輪藻類の沿革及び特異性（Ⅱ）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-02-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 今堀, 宏三, Imahori, Kozo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065334

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

Vol. Ⅱ No. 4 October 1953

北陸の植物

The Hokuriku Journal of Botany Published Quaternary
by Prof. G. Masamune

第二巻 第四号 昭和二十八年十月発行
(通巻第 8 号)
北陸の植物の会発行

目 次 Contents

今堀宏三： 石川県産輪藻類の沿革及び特異性（Ⅱ） 神谷 平： フウセンモの分枝性について 正宗厳敬： 固有について（Ⅲ） 倉田悟・中村武久： 北陸のオオキヨズミシダ 寺下友三郎： 奥能登の植物（Ⅲ） 細井幸兵衛： 三陸地方のコゾウナカセ、ムコナカセ 斎藤芳夫： 赤根川上流に於ける羊齒相 森 邦彦： 飛島フロラに新たに追加すべき植物名（Ⅲ） 下沢伊八郎 ： 石川県植物ノート 第二巻（昭和28年）著者名索引 Author Index Vol. Ⅱ (1953)

今堀宏三※ 石川県産輪藻類の沿革及び特異性 （Ⅱ）

Kozo Imahori : History and Remarks of Charophyta-flora in Isikawa Prefecture (Ⅱ)

3）植物地理的に見た本県のフロラ

元来顕花植物においては、北陸地方が南方系及び北方系植物の交錯する地帯として注目されて来ているが、同様のことがこの類についても云えるようである。もつとも本植物群の日本内における分布状況は、顕花植物の場合程十分には調査してないので、結論を求めることは、或は不適当でないかと思われるが、筆者の調査し得た限りでは第3表の如く特に南方系のものが多く、中でも本県を北限としているものが実に本県フロラの20%を占める6種にも及んでいることは、甚だ興味深い。これ等のものを更に詳細にのべる。

まず *N. flagellifera* Gr. & All. チンピンフラスモは最初インドのガンジス河流域で1927年採集されて後全然記録されていない珍品であるが、筆者はこれを京都郊外、富山県婦光町及び石川県古尾市郊外の三ヶ所で採集することが出来た。その形態では、稔性副枝

※ 金沢大学理学部植物分類学研究室

を普通の小枝の第1節分岐部に生ずるという珍らしい特徴（この様な例は本種の外では1例知られているのみである）をもつているので他種と容易に区別がつく。

第　三　表

南方系と思われるもの		北方系と見られるもの
Nitella acuminata A. Braun	*N. Horikawae* Imah.	*Nitella Tanakiana* Allen
var. *subglomerata* Braun	*N. flagllifera* Gr. & All.	*N. Saitoiana* Allen
var. *capitulifera*(Allen) Imahori	*N. lepiodaciyla* Gr.	*Tolypella gracilis* Imahori
N. dimorpha Migula	var. *megacarpa* Groves	*Chara globularis* Thuiller
N. gracillima Allen	*N. oligospira* A. Br.	
N. axilliformis Imah.	*N. expansa* All.	
N. furcata Agardh	*Chara corrallina* Willdenow	
var. *furcata* Imahori	*C. zeylanica* Willdenow	

N. leptodactyla はセイロン島で最初発見され、後マダガスカル島でつづいて採集された以外、全く記録のないものである。筆者は1940年香川県狭間池で発見、以来石川県倶利伽羅谷、広島県加茂郡原村、山口県川棚温泉、大分県下毛郡今津町及び福岡県筑紫郡春日村等で相ついで採集した。卵胞子の大きさから見るとマダガスカル島の *N. leptodactyla* var. *megacarpa* に近いようである。

N. axilliformis は筆者がかつて台湾で採集、新種として発表したものであるが、後本種が九州にかなり多く生育していることが明らかとなり（鹿児島県日置郡田布施村、同日置村、宮崎県都城市、福岡県筑紫郡春日村等で採集）更に四国でも高知県長岡郡本山村で採集することが出来た。しかし此等の地方はいずれも温暖な地方ばかりであるが、これが七尾市郊外で採集されたという事実は特筆に値しよう。

N. acuminata は元来変異に富む種類であるが、いずれにしても元々熱帯地方にその起源をもつと思われることは *Chara corallina*, *C. zeylanica*, *Nitella oligospira* 等と同様、一般に信ぜられているようであるが、殊に var. *subglomerata* は熱帯アジヤ（マレー半島、スマトラ、ジヤワ、ボルネオ、フイリツピン、アンボイナ）及び熱帯及び亜熱帯アメリカにのみ知られているものである。これが四国（香川県日野原および岡本村）九州（大分県下毛郡今津町、鹿児島県日置村田布施村、同伊集院村右田、指宿市馬渡川）等で多数採集され、本州でも広島県双三郎十日市町及び伊豆の新島等温暖地方にのみ知られているが、筆者は昨夏（1952年7月）加賀三湖の一として知られる木場潟で採集することが出来た。尚もう一つの変種である var. *capitulifera* も同様に南方系要素の明らかなもので、最初 Allen により *Nitella capitulifera* として発表され（この産地は単に日本とのみ記されているだけで詳かでない）その後筆者及び加崎氏によつてこれが本州、四国、九州に広く分存していることがわかつたが、その北限は宮城県高館村である。尚この植物は台湾にもかなり多く分布していることから、やはり南方系植物、内至は温暖地方のものと考えられる。

なお残りの *Nitella expansa*, *N. Horikowe* はいずれも日本特産種であり、かつその産地もごくわづか知られてないので、断言は出来ないが一応本県が北限となつている。

北方系植物が、南方系植物に比べて相当数少いことは、顕花植物のフロラと同様であるが、本県を南限とするものが1種もないことは一応奇意を抱かせる。しかし富山県、或は福井県を南限とするものが若干ある所から、やはり本県辺りが、北方系植物の南下し得る限界点附近であることは云える。

参 考 文 献

今堀宏三：	東亜輪藻類雑記	その1	植物研究雑誌	22巻	40～45頁
———：	〃	その2	〃	25巻	73～77頁
———：	〃	その3	〃	28巻	11～15頁
———：	Tolypella 属日本で次々発見される		北陸の植物	1巻	1～2頁
———：	Notes on the Asiatic Charophyta	1	植物学雑誌	62巻	1～4頁
	〃	2	〃	63巻	260～264頁
	〃	3	〃	印刷中	

神谷 平※

フウセンモの分枝性について

T. Kamiya : On the Branching of *Botrydium*

数年来筆者が愛知県安城市近郊においてフウセンモの調査をした結果幾つかの *Botrydium granulatum* の枝分れした標品を得、又1952年10月東京都朝霞地方で枝分れの多い *B. divisum* Iyengar[1] と思われる標品を採集した結果、その形状、原因について少しばかりの知見を得たのでここに報告する。本調査の標品は主として野外採集のものであり、それに採集したものを土塊のまま室内でシャーレに栽植しておいたものについて鏡検したものである。

本稿を草するに当つて参考文献のマイクロフイルムを送つていただいた平野実氏の御厚意を深謝し、又東京都のフウセンモ採集に便宜を与えていただいた竹内正幸君に深く感謝する。

フウセンモの地上部の Vesicle が枝分れすることは Hansgirg (1886), De Toni ('89), Klebs ('96) 氏等が *B. granulatum* について報告している。又 Miller (1927) は *B. granulatum* が水中に生育したときには糸状に沢山分枝するものがあると言つている。然しこれらは皆図がなく、その様子を知ることが出来ない。Iyengar('25) は *B. granulatum* 及び *B. tuberosum* が1回分枝し、その方法は叉生分枝であることを図を以て記載し、更に枝分れの多い種 *B. divisum* を印度の Calcutta で1923年1月に採集し発表している。これによると若いときには *B. granulatum* と同様であるが古くなると枝を出し、叉状分枝で通常2～4本、ただ1個体で7本の枝のものを観察している。

筆者の採集した標品は Iyengar の *B. granulatum* 及び *B. tuberosum* の分枝と略同じで第1図 a, d, 第2図 a の形であるが、更に第1図 c, e の標品を観察した。これは藍藻類の *Oscillatoria sp.* がフウセンモを取巻いたために vesicle の中腹に異状突起を生

※ 愛知学芸大学生物学教室

1) *B. divisum* Iyengar については他日の機会にゆずる